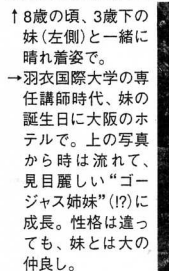


“楽しくなければ大学じゃない!”をモットーに —英語～マーケティング。「やりたいことをやる」を貫いて研究の道に

→誕生日にプレゼントしてもらった自転車に乗ってご機嫌な4歳の頃。当時から身体を動かすことが大好きだった。



↑8歳の頃、3歳下の妹(左側)と一緒に晴れ着姿で。
→羽衣国際大学の専任講師時代、妹の誕生日に大阪のホテルで。上の写真から時は流れて、見目麗しい“ゴージャス姉妹”(?)に成長。性格は違っても、妹とは大の仲良し。



↓法政ビジネススクール(大学院経営学研究科経営学専攻の社会人向けの夜間修士課程)マーケティング・サービスマネジメントコースで社会人大学院生の修士論文指導も行っている。



→着任後、担当することになった経営学部スタディ・アブロード(SA)米国プログラムの参加学生たち。



↑2年生8人、3年生9人の第1期生を迎え、2005年4月にスタートした木村ゼミ。昨年8月9日・10日には、富士急ハイランドで第1回ゼミ合宿を実施し、アミューズメントパークの取材とフィールドワークを行った。自ら考え、積極的に行動し、成果を出している自慢のゼミ生たちは、ホームページ(<http://kimuraseminar.qee.jp/>)も作成。



興味津々：

経営学部助教授

木村純子



●(きむら・じゅんこ)

大阪府生まれ。神戸女学院大学文学部英文学科卒業後、ニューヨーク州立大学大学院コミュニケーション研究科修士課程修了(M.A.)。神戸大学大学院経営学研究科博士前期課程、同後期課程修了。博士(商学)。羽衣国際大学産業社会学部専任講師・同助教授を経て、2005年4月本学経営学部助教授に着任。専攻はサービスマネジメント論。消費文化論、マーケティング、サービス・マーケティングを研究テーマとし、ビデオグラフィの方法論により消費者行動を研究している。著書に“Emergence and Change of Consumer Product Image in Social Constructionism Perspective”, Creating Images and the Psychology of Marketing Communication, 2006(共著)。

◆なぜ研究者になられたのですか？
—英語が得意だったので、大学の英文学科で学び、卒業後はホテルに就職しました。でも、やりがいを感じていた接客サービスの仕事から配置換えになったことをきっかけに、以前から考えていた米留留学を決めました。当初は、コミュニケーションについて勉強したいと思ひ、ミルウォォーキー州にある女子大に編入したんです。ところが、日本では自信のあった英語が全く分からない状態で、情けなく、悔しい思いを味わい続けることになりました。週末も一人で図書館にこもり、教科書を読み続けました。半年過ぎた頃から、やっと肩の力も抜けて、勉強が面白くなってきたんです。

そんな時に、「日本の大学の学位を持っているのだから、大学院で勉強すれば」という知人のアドバイスもあり、渡米の翌年にニューヨーク州立大学大学院コミュニケーション研究科修士課程に入学しました。一年半で修士号(M.A. | Master of Arts)を取得できたので、帰国しました。
帰国後、特許事務所で一年間働いた後、広告会社で営業企画の仕事に就きました。その経験から、マーケティングをきちんと勉強したいと思ひ、神戸大学大学院経営学研究科に入りました。最初は、修士(博士前期)課程で終わるつもりでしたが、二年間の勉強では、まだまだ足りないと感じて、博士後期課程に進学。五年間かけて研究を

進め、博士論文を書き上げて、博士(商学)を取得しました。博士後期課程に進んだ頃から、研究職に就きたいと考え始め、同修了後、大阪の羽衣学園短期大学(現・羽衣国際大学)専任講師に着任。羽衣国際大学助教授を経て、昨年四月に法政の経営学部助教授に着任しました。

私は、英語、コミュニケーション、マーケティングなど、その時々々に自分がやりたかったことに率直に向かい、やり続けて今に至っています。最初から研究者を目指していたわけはありませんが、自分がやってきたことを振り返ってみると、結果的に現在の専攻であるサービスマネジメントにつながっているんですね。

◆取り組んでいる研究テーマは？

—神戸大の大学院では初め、コミュニケーションとしてのギフトについて研究していました。博士後期課程では、最も大きなギフトの機会であるクリスマスギフトをテーマに研究を進め、その後、ギフトに限定せずに消費者行動を研究することでクリスマスそのものをとらえたいと考えようになりました。博士論文では、年中行事的なものから、食事や習い事などの日常的な消費現象を理解するための新しい枠組みの提示を試みました。現在は、クリスマスに

加えて、サンタクロースについて、さらに、美人、ゴージャス消費というテーマでの研究に取り組んでいます。

◆ゼミではどんなことを？

—スタートしたばかりの木村ゼミ一期生は、二・三年生合わせて十七人。四つのグループに分かれて、マーケティングを学んでいます。説得的なマーケティング企画の立案のために、グループがそれぞれに選んだ製品の市場調査を行い、十一月には実際に企業に向いてプレゼンテーションも実施しました。また、夏のゼミ合宿では、アミューズメントパークのサービスマネジメントをテーマに、一泊二日で富士急ハイランドの取材とフィールドワークを行いました。

私は、「楽しくなければ大学じゃない!」をモットーにゼミや授業に取り組んでいます。法大生は、自分たちでワクワクすることをを見つけ、積極的に行動して楽しむ術を知っていると感じています。

◆何かご趣味をお持ちですか？

—小さい頃から音楽に合わせて身体を動かすことが大好きで、バレエやジャズダンス、スケート、エアロビクスなどをずっと楽しんできました。着任時のプロフィールに、趣味はダンスと音楽鑑賞と記載しましたが、今は踊る時間がとれず残念です。